

飼料作物奨励品種選定試験

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

市販されている飼料用作物の種子について、どの品種が鳥取県の栽培環境に適したものであるかは、種苗会社の栽培データだけでは判断しづらい。そこで、農家に推奨する「奨励品種」を選定するための基礎資料とするために、飼料作物の中でも県内で栽培面積の多い飼料用トウモロコシ及びイタリアンライグラスについて、3か年の反復試験を行い、生育特性及び収量性について調査した。

(2) 情報・成果の要約

1) 飼料用トウモロコシ

2020年度に3か年の試験が終了した2品種の総合評価成績の平均点を標準品種と比較したところ、1品種は標準品種と同等の成績、もう1品種については標準品種を大きく下回る成績であった。

2) イタリアンライグラス

2019年度に3か年の試験が終了した2品種について、共に乾物収量の平均が標準品種を上回る成績であった。

2 試験成果の概要

(1) 飼料用トウモロコシ

2020年度に3か年の反復試験が終了した2品種（‘TX1334’ ‘SDSH-4812’）の総合評価成績（収量性、耐病害虫性及び耐倒伏性等を数値化して評価）は、‘TX1334’が3か年の平均点において標準品種と同等の成績、SDSH-4812は標準品種を大きく下回る成績であった。また、乾物収量、TDN収量の3か年平均では両品種ともに標準品種を下回った（図1、2）。

総合評価得点一覧

		2018年度	2019年度	2020年度	3ヶ年平均
早生品種	標準品種 (KD680, KD641)	68	80	82	76.7
	TX1334	80	74	78	77.3
中晩生品種	標準品種 (P2023, P2307)	78	82	94	84.7
	SDSH-4812	78	78	72	76.0

表1 総合評価得点

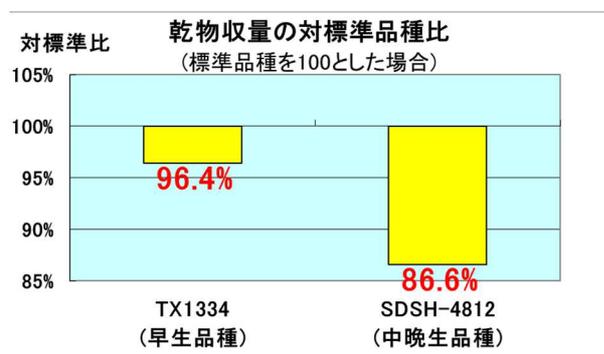


図1 乾物収量

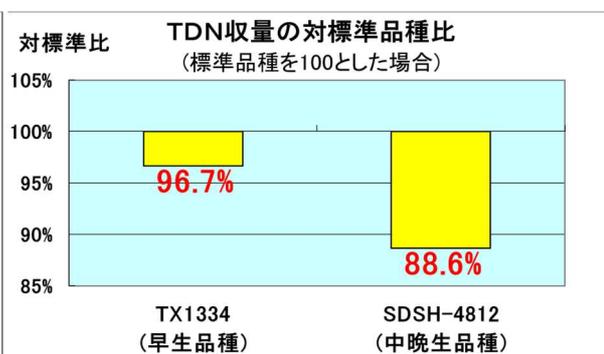


図2 TDN収量

(2) イタリアンライグラス

2019年度に3カ年の反復試験が終了した‘tachyuka’、‘ushioi’は、発芽良否で共に標準品種を上回り(図3)、初期草勢では共に標準品種に僅かに及ばなかったが(図4)、収穫時の草丈では共に標準品種を上回り(図5)、乾物収量でも共に標準品種を上回った(図6)。



図3 発芽良否

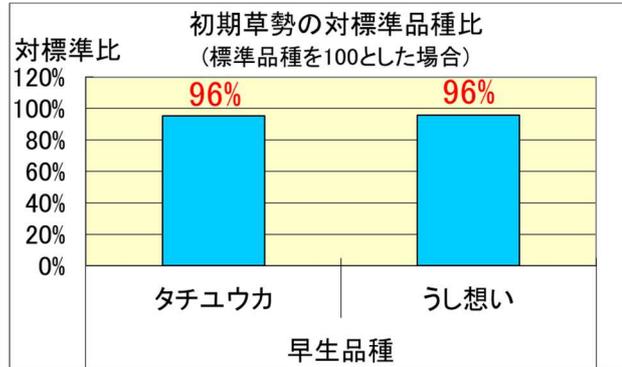


図4 初期草勢

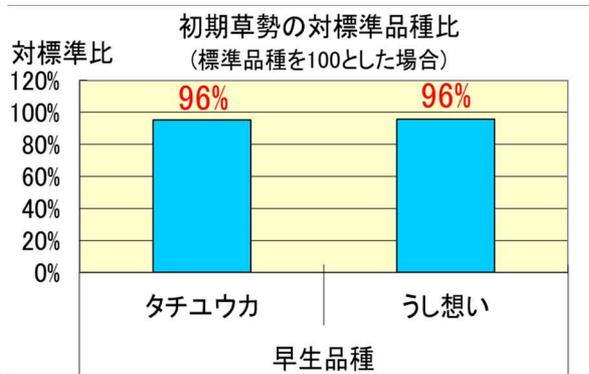


図5 草丈

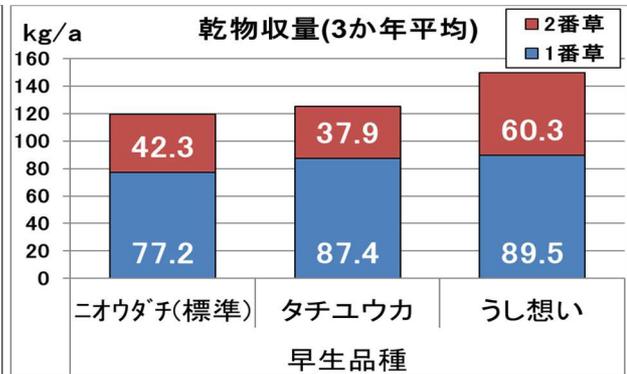


図6 乾物収量

3 利用上の留意点

試験圃場の土壌は黒ボク火山灰土壌であり、標高は40mである。

イタリアンライグラスのtachyuka、ushioiは鳥取県奨励品種選定会議に諮った結果、県の奨励品種に選定された。

4 試験担当者

酪農・飼料研究室 研究員 加藤 栄喜